



THE Y'S MEN'S CLUB OF KANAZAWA-SAIGAWA

CHARTERED IN JUNE 12, 1993

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF
Y'S MEN'S CLUBS

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

c/o YMCA : 44-1, SATOMICHO, KANAZAWA, JAPAN ☎920-0998 ☎(076)221-5398

<http://ys-saigawa.web.infoseek.co.jp/>

国際会長主題 「一つとなる力」 “The Power of One”
アジア地域会長主題 「一つとなる力」 “The Power of One”
スローガン 「夢見るアジア、愛するアジア」 “Dreaming Asia, Loving Asia”
西日本区理事主題 「すべてのいのちを大切に—いのち・平和・環境—」
“Love & Care for All the Living Things—Life, Peace, Environment—”
中部部長主題 「ワイズの理念を胸に自信を持って活動しよう」
金沢犀川クラブ会長主題 「基本を踏まえて、もっと楽しく」
“Let's return to our beginning and enjoy volunteering again”
会長：三谷信三 副会長：川村孝治 書記：北肇夫 会計：高木啓一 直前会長：平口哲夫

今月の聖句：人の心を見抜く方は、“^{れい}霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。

ローマの信徒への手紙 8 : 27

2010年5月強調月間

LT leader-training

「ワイズ読本」を活用して、クラブ内新入会員及び新たな役職につく会員への的確な研修を持ちましょう。
研修し合うことから新たな学びが与えられます。

鈴木誠也 理事

☆☆☆5月第一例会案内☆☆☆

日 時：5月27日(木)19:00～21:00
場 所：兼六城下町“ホテル兼六”2階「時雨の間」
金沢市兼六町2-5 TEL 076-210-8111
会 費：2,500 円

プログラム

司 会：作田君
開会・点鐘：三谷会長
ワイズソング：一同
今月の聖句：司会者
ゲスト紹介：平口君
食前の感謝：三谷会長

——会 食——

卓話「ホテルの飛び交うまちづくり」：
石川ホテルの会事務局長 新村光秀氏
事業委員報告：各委員
ニコニコタイム：高木君
閉会・点鐘：三谷会長
*使用済み切手をご持参ください。

☆☆☆4月例会報告☆☆☆

[第一例会]

日 時：4月29日(祝・木)11:00～14:00
場 所：“満天の湯”
出席者：川村君・北君・澤瀬君・高木君・平口君・三谷君(計6名)

[第二例会]

日 時：4月8日(金)19:00～21:00
場 所：金沢 YMCA
出席者：川村君、北君、澤瀬君、高木君、三谷君

今月のハッピーバースデー 平口メット(5月20日)

6月の当番 司会：川村君、準備：北君

金沢 YMCA 会員定期総会 5月24日(月)18:30～
会場：北陸学院大学

クリーンキャンペーン 5月30日(日)早朝

第13回西日本区大会 6月13日(土)～14日(日)、
広島で開催。澤瀬君、平口君、三谷君が参加予定。

第69回国際大会 8月5日(木)～8日(日)、横浜で
開催。北君、平口君が参加予定。

当クラブ		4月出席者		4月出席率	BFポイント		ニコニコタイム	
正会員	7名	メン	6名	85.7%	前年度繰越	1,711 g	4月分	0円
広義会員	0名	メネット	0名		4月分切手	100 g		
		ビジター	0名		今年度累計			
		ゲスト	0名		切手	470 g		
					現金	0円		
合計	7名		7名	85.7%	合計	2,181 g	累計	73,421円

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

◆ 4月第一例会報告 -眠られぬ夜- ◆

高木 啓一

4月27日(火)深夜3時に仕事を終え、CATVの天気専門チャンネルで明後日の金沢の天気予報を見ると、夜間は曇り、その後多少の雨が降るけれども回復して晴天になるとのことでしたので、翌28日の正午頃に川村宅へ行き、29日のYMCAの“たけのこキャンプ”の準備をしなければと思いつつ床に就きました。

明け28日9時起床と同時に再度天気予報を確認すると、深夜3時より9時までは雨マーク。刻々と変わる予報の変化を気にしつつ川村君宅へ11時頃到着。データー放送で3時間毎の最新の天気予報を注視し、北さんが到着した12時の最新予報では雨マークに加えて強風が吹きそうとの予報が表示されました。そこで明日行か否かの最終決定を3時の予報を見て決めましょうということになりました。その予報では前回と同じ表示のため、残念ながら中止を決定し金沢ワイズの澁谷氏ほか関係各位へ通知しました。

しかし決定後も天気は全く崩れる様子がなく、我々の判断が良かったのか多少の不安をいだきながら床に就いたものの、外の天気が気になりなかなか寝付かれず、気が付けば降雨予報の3時を過ぎていました。一向に降雨の気配が無いので、子供達が楽しみにしていたキャンプの中止は判断を間違ったのではないかと不安になりましたが、4時を過ぎた頃から風が強まり、ポツポツと降り出した雨が俄かに本降りとなりました。内心ホッとしながらも残念な気持ちもあって、複雑な思いをしながらいつしか寝入りました。

犀川ワイズの第一例会は、川村君の提案でスーパー銭湯の“満天の湯”(金沢市中村町)にて11時よりオッサン6名で行いました。



◆ 4月第一例会余談 -ウォーキング- ◆

平口 哲夫

川村メン・北メン・高木メンを中心に周到な準備を進めていた“たけのこキャンプ”が中止となったのは、とても残念なことです。代わりに急遽“満天の湯”で金沢犀川クラブの第一例会を開催することになったのも、なかなか粋な計らいだったのではないのでしょうか。

解散後、北さんと私は、金沢城内の建物を一部移築して造られたという中村神社を見学、犀川に架かる新橋を渡り、長町武家屋敷街、香林坊を経て中央公園に行きました。そこで北さんと別れた私は、復元完成したばかりの金沢城河北門を見学してから帰宅。

◆ 世界連邦運動とクリスチャン(その3) ◆

平口 哲夫

2005年10月1日広島で開催された第25回世界連邦日本大会に参加した際、久しぶりに広島平和記念資料館を見学しました。

この資料館を見学するのはこれで三度目です。最初は高校2年の3月、西日本修学旅行のときでした。薄ら寒い日でバスに酔ったせいもあって気分が悪いのを我慢しながら、背筋も凍る思いで黙々と見学したのを憶えています。二度目は、大学3年の10月に参加した考古学研修旅行の途中、まだ原爆資料館を見学したことがないという同僚に付き合っ再訪しました。

ところで、今年6月13日の第13回西日本大会で基調講演をなさるスティーブン・リーパー氏(広島平和文化センター理事長)は、私が学生時代に過ごした東北大学基督教青年会館(溪水寮)とご縁のある方なので、逸話を紹介しておきます。

1954(昭和29)年9月27日、北海道大学YMCAの汝羊寮訪問を終えた日本YMCA同盟学生部協力主事デーン・リーパー氏が午後1時24分着の列車で仙台に着くというので、溪水寮の寮生たちは準備を整えて待機していたところ、8時のラジオ・ニュースで「昨夜、青函連絡船洞爺丸が台風で沈没してたくさんの遭難者が出た」ということを一寮生が聞いたのです。しかし、リーパー氏の安否についてはなかなかつかめず、現地警察がリーパー氏の遭難を確認したのは一昼夜過ぎた28日朝、ご遺体が船底で発見されたのは死後2週間が経ってからのことです。

洞爺丸事故が起きた当時、私は小学校3年生でしたから、ラジオや新聞などで大々的に報道されたことを憶えています。また、基督教の宣教師が自分の救命具を若い人に着せて身を犠牲にしたという話しも中学・高校生の頃に人づてに伺っておりました。しかし、詳細を知ったのは溪水寮に入ってからです。

“彼は、大きく揺れる船内で船酔いに苦しむ女性に、船内で出会ったオース宣教師から船酔薬を貰ってやったり、美術を学びに関西に行く函館分校の学生たちが救命胴衣を着けるのを手伝い、子供を持つ母親に安全な場所に移るよう指示し、女性たちが青ざめてうずくまっている間を這うようにして泣き叫ぶ子供たちに胴衣を着せてやり、若い女性に「ワタシノアゲマス」と言って自分の救命胴衣を着せてやったという。自らの危険をかえりみず、最後まで他人が生き残ることに希望をつなぎ、水びたしになりながら船室に取り残された者のために祈りを唱えていた姿が報告されている。時に三十三歳、二児の父親だった。”(渡部治雄1998、『溪水 心の交流史』南窓社)

溪水寮を訪れた落合YMCA同盟学生部主事がデーン・リーパー氏のご長男のことに触れ、「当時6歳ぐらいだったと思うけど、どうしているかな」と私たち寮生に話してくれました。そのご長男こそほかならぬスティーブン・リーパー氏だったのです。

金沢YMCAのホームページ

<http://ys-saigawa.web.infoseek.co.jp/kanazawa-YMCA.html>